



One MIZUHO

2019年2月1日

# みずほディーラーズアイ (2019年2月号)

みずほ銀行



## 目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民币相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリンギ相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

\* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

## 米ドル相場

予想レンジ: **USD/JPY 107.50 ~ 111.50**

国際為替部 為替営業第二チーム 田家 祐介

### 先月の為替相場

年初1月2日、109円台後半で取引を開始したドル円は中国12月製造業PMIが景気の好不調の分かれ目となる50を下回ったことからアジア株が軟調推移する中、108円台後半まで上値重く推移。3日、米大手通信会社の売上高が下方修正されたことから景気減速への警戒感からドル円はじりじりと下落し、流動性が低下する中、ドル円はストップを巻き込みながら月最安値104.10円まで急落。しかし円買い一巡後は107円台後半まで反発した。本邦祝日明けの4日、米12月雇用統計が予想対比良好な結果となったことやパウエルFRB議長が政策運営に柔軟な姿勢を示したことが好感されるとドル円は108円台半ばまで上昇。7日、ロス米商務長官が米中通商協議について前向きな見方を示したことから8日にかけて底堅く推移し、109.09円まで上昇。9日、Fed高官から「金利は中立金利に近づいている」や「Fedは辛抱強くなる」とハト派なコメントが出たことからドル売りの展開となり10日にかけて107.77円まで反落。11日、108円台半ばまで値を戻し、14日にかけて同水準での小動きの展開。15日、五・十日のためドル買いフローが散見されたことや16日にはメイ英首相の不信任案が否決されたことで109円台まで上昇。その後17日の「米国が市場を沈静化するために中国への関税一部緩和を検討」との報道や18日の「中国が2024年までに対米貿易黒字をゼロにすることを目指す」との報道で米株が上昇する中、ドル円も109.89円まで続伸。その後IMFが世界経済見通しを下方修正したことや米12月中古住宅販売件数が予想を下回ったことから109.14円まで反落。23日、日銀金融政策決定会合では金融政策の現状維持が決定されるも、市場の予想通りであったことから同会合への反応は限定的。その後、米上院が政府機関閉鎖解除に向けて法案採決を実施するとの報道が好感されると米金利が上昇、ドル円も月最高値110.00円をつけた。しかしその後はすぐに109円台半ばまで反落するも、25日にはトランプ米大統領が繋ぎ予算案に署名し、政府機関の閉鎖が解除される見通しとなったことから109.95円まで反発。28日、FRBが資産縮小の見直しを検討しているとの報道に米金利低下の中、ドル円は109.17円まで下落。30日、FOMCでは予想通り政策金利の据え置きが決定されるも、声明文では「バランスシート正常化の調整を準備する」とし、パウエルFRB議長の会見も同様にハト派な内容になったことからドル円は108.81円まで急落。31日、109円付近での推移となり、108.86円で越月した。

### 今月の見通し

今月のドル円相場は底堅い展開を予想するものの、2月後半にはリスク要因が散見されることから大きく上昇する可能性は低いと予想する。まず1月3日のドル円の急落による市場への影響は限定的だろう。4日以降のドル円の値動きを見ると急落した水準まで下値を探る動きは特段なく、むしろ底堅い展開となっている。東京時間朝7時という最も流動性が低下する中、アルゴリズム主導で急落したとの意見が太宗であり、今後の推移を予想する上で重要な要素にはならない可能性が高いか。次にトランプ米大統領は2月15日までの暫定予算を組むことで米政府機関閉鎖の解除で議会与野党と合意した。米政府機関閉鎖が長期化すれば2020年の大統領選挙での再選が難しくなることを警戒したと考えられるが、ホワイトハウスの推計によると政府機関の閉鎖が1週間続くと、四半期年率換算のGDPが毎週0.13%下押しされると指摘がある中、米政府機関の再開は市場にとってポジティブだろう。暫定予算の期限である2月15日以降に再度閉鎖されるリスクはあるものの、当面は安心感からドル円は底堅い展開か。1月30日のFOMCでは声明文に「バランスシート正常化の調整を準備する」と記載されたことに加え、「徐々に利上げ」や「リスクはおよそ均衡している」との文言が削除される等、ハト派な内容となつた。またパウエルFRB議長の会見も同様にハト派なものとなつたことから利上げ一時停止の思惑が強まり、ドル全面安へと繋がった。FOMCがハト派な内容になつたことで米金利が低下することはドル円の下押し圧力となるだろう。一方でバランスシート縮小の停止は米株上昇に繋がるため、景気拡大局面が長期化するとの思惑はドル円のサポート材料になろう。そのため、本会合の結果がそのままドル円を大きく押し下げる可能性は低いか。一方で110円台では本邦輸出企業によるドル売り円買いのフローがドル円を重くすると予想され、短期間で大きく上昇する可能性は低いだろう。また、2月後半にはリスク要因が多く予定されている。2月15日は暫定予算の合意期限であり、米政府機関の閉鎖リスクが高まるだろう。また、2月末は米国による中国への制裁関税発動の猶予期間の期限である。2月上旬は中国が春節で連休となる中、米中貿易協議に関する目立ったヘッドラインが出てこないことでドル円は底堅い展開が継続すると予想するものの、2月下旬にかけては上述の通りリスク要因で値を下げる展開には注意したい。

### 為替の動き



### 株価指数の動き



### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/3	ADP雇用統計	12月	180K	271K	148K
1/4	ISM製造業景況指数	12月	57.5	54.1	58.8
1/4	非農業部門雇用者数変化	12月	184K	312K	176K
1/4	失業率	12月	3.7%	3.9%	3.7%
1/4	平均時給(前年比)	12月	3.0%	3.2%	3.1%
1/11	CPI(食品・エネルギー)(前年比)	12月	2.2%	2.2%	2.2%
1/23	中古住宅販売件数	12月	5.24M	4.99M	5.33M
1/30	ADP雇用統計	1月	181K	213K	263K
1/30	FOMC政策金利(上限)		2.50%	2.50%	2.50%
1/30	FOMC政策金利(下限)		2.25%	2.25%	2.25%

## カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

### ドル・ブル (2名、106.00～112.00、中心106.50～112.00)

関	106.00 ～ 112.00	FF先物ではそもそも本年の利上げは織り込まれておらず、FOMC後のドル安の動きは限定的か。米国経済指標の弱含み以上に、ユーロ圏含めた世界的な景気後退観測が拡がれば、株式及びリスク資産上昇の動きも相俟って、ドル円に関しては今月も底堅く動く事を想定している。
藤巻	107.00 ～ 112.00	FEDは株を上げたいという意思を非常に感じる。それは大統領も同じ。そしてそれは中国もそうであろう。よって、利上げがないという意味ではドル買いにはなり辛いが、それは既に金利市場で織り込み済み。リスク資産が上昇すればドル円は上昇か。

### ドル・ペア (8名、106.00～113.00、中心106.00～111.00)

田内	106.00 ～ 111.00	米中貿易不均衡は正に向けた交渉において、交渉期限となる2月末までは波乱余地は依然として残っており、ドル円は伸び悩む展開を予想する。但し、特朗大統領の米国内株価と景気の安定重視を優先する直近の姿勢に、態度軟化・全面衝突回避も考えられるため、下落幅も限定的と見る。
加藤	106.00 ～ 112.00	米国の不動産価格にピークアウトの兆しが見られ、急低下するインフレ期待は正常化プロセスの終了を示唆する。よってドル/円相場は徐々に頭重く推移していくことになろう。
光石	107.00 ～ 112.00	FOMCで当面の利上げ休止が示唆されたことを受け、対主要通貨でのドル安がドル円の上値を重くするものと予想。引き続き米政府機関の再閉鎖のリスクを抱えていることに加え、米中貿易問題やブレグジット等の先行きも不透明であり急速な円高の動きには注意を払いたい。
岡本	106.50 ～ 113.00	FOMCは利上げを停止、世界的な景気減速感の強い中様子見姿勢を強めた。Brexitや米予算関連、米中貿易戦争などリスクオフ材料には事欠かず、いずれも本源的な解決は遠いため、ドル買いにより円安が進む場面はあっても長続きしないとみる。
上野	106.00 ～ 111.00	引続き、ドル円に注目が集まる展開は想定しにくく、大きな動きは見られないのでは。一方で米国・欧州・そして中国など経済の下振れ懸念が高まりを見せるなど、ステージは経済の下振れ顕在化、それへの対処に移っているように感じる。動意づくとすればリスクの顕在化、ドル円下方向か。
玉井	106.00 ～ 111.00	FRBはハト派の姿勢を見せており、3月の利上げは見込まれなくなった中、ドルは買われづらい状況が続くと思われる。一方、FRBの金融政策変更については既に織り込み済みであること、欧州・中国等他地域の経済に懸念が見られること等を勘案するとドルの下値は限定的と予想する。
森谷	106.00 ～ 110.50	1月FOMCは想定よりもハト派な内容と言えるものであり、利上げの打ち止めを示唆するものであった。Fedのハト派スタンスは株価をサポートする材料となり得るため、ドル/円の大幅下落こそ予想しないものの、ドル売り圧力が円売り圧力を上回りじりじりと値を下げる展開を予想する。
大熊	106.00 ～ 111.00	FRBが利上げ休止の可能性を示唆したことと、米長期金利は低下し、ドルの上昇基調は弱まっている。米中通商協議で進展があったとしても、中国の景気減速は鮮明となっていることからリスクオンの地合いにはなりにくく、下値を切り下げる展開を予想する。

## ユーロ相場

### 予想レンジ:

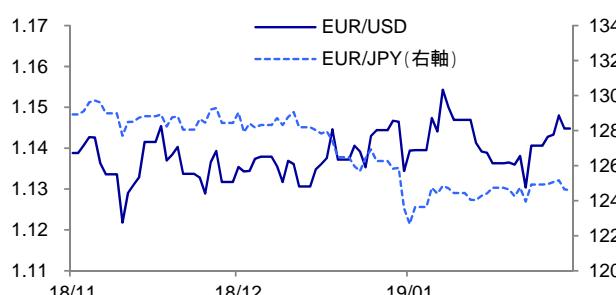
EUR/USD 1.1300 ~ 1.1600  
EUR/JPY 123.00 ~ 126.00

国際為替部 為替営業第二チーム 岡本 明生

### 先月の為替相場

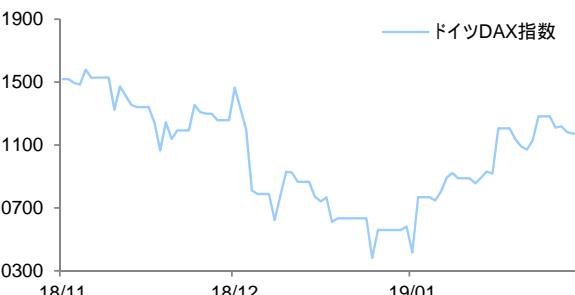
年明け2日は、50を割り込んだ中国製造業PMIに不安高まるもユーロは買われて1.1497まで上昇。しかし、弱い欧州指標を受けユーロ1.1325まで反落する場面も。3日は、米通信大手が4Q売上高を下方修正したこと等を受け、ドル/円やユーロ/円が急落。それに連れて1.1310まで下落したが、軟調な米ISM製造業景況指数もあって1.1411まで戻した。4日は、強い米雇用統計を受けドル買いが強まり1.13台半ばまで下落したが、パウエルFRB議長がバランスシート政策変更の用意があると発言、1.1397まで反発して越過した。週明け7日は1.13台後半でスタート。ユーロ/円の大幅上昇もあって1.1483まで上値を伸ばすも、結局1.1450絡みで揉み合い継続。9日、米地区連銀総裁が利下げの可能性に言及したことやハト派なFOMC議事録でドル売りが強まり、ストップを巻き込みながら一時1.1560まで急伸した。10日には1.1570を付けたが、その後は1.15ちょうど近辺まで売り戻される展開に。11日の米CPIは市場予想通りも、ポジション調整の売りにユーロ/ドルは1.1470台まで小緩んで越過。1.14半ばへ後半での推移が続いているが、15日ドラギECB総裁のハト派発言にユーロは売り優勢となり1.13台後半へ下落。しかし、英下院がメイ首相ブレグジット協定案採決で歴史的大敗。ポンドが買い戻される展開にユーロ/ドルは1.14台前半を回復した。16日は1.13台後半まで値を下げる場面あるも、ユーロ/円の買いにサポートされ1.14台へ水準を戻した。その後は経済指標や米中通商協議への期待感から1.13半ばへ1.14台前半でのレンジで推移、1.13台後半で越過した。21日は1.13台半ばでオープン。英政府のブレグジット協定代替案は真新しい内容は見られず市場への影響は限定的。1.13台後半で膠着していたが、23日に英国の合意なき離脱可能性低との思惑からポンドが上昇し、ユーロ/ドルは連れ高で1.1394へ。しかし、24日はドラギ総裁のハト派な記者会見内容を受け1.13台前半まで反落。その後もクドロー委員長の発言を受けドルが買い戻される展開に一時週安値となる1.1289をつけた。25日には1.13台前半へ値を戻し、その後もショートカバー優勢で1.1400台を回復。米暫定予算署名への反応は特段なく、1.1405レベルで越過。28日は主要イベントを前に1.14前半で膠着。29日は英下院でブレグジット協定代替案の採決あるも、ユーロの値動きは限定的。変わらず1.14台で推移していたが、30日FOMCにて利上げ見送り、B/S政策含め慎重姿勢を示したためドル全面安の展開。ユーロ/ドルも1.15台を回復して、翌31日も1.1500近辺で推移している。

### 為替の動き



(資料) ブルームバーグ

### 株価指数の動き



(資料) ブルームバーグ

### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/4	卸売物価指数(前月比/前年同月比)	11月	-0.2%/4.2%	-0.3%/4%	0.8%/4.9%
1/4	消費者物価指数(速報値、前年比)	12月	1.7%	1.6%	1.9%
1/7	小売売上高(前月比/前年比)	11月	0.2%/0.4%	0.6%/1.1%	0.3%/1.7%
1/22	独ZEW指数(現状/期待)	1月	43.0/-18.5	27.6/-15.0	45.3/-17.5
1/24	ECB理事会、政策金利	1月	0%	0%	0%
1/24	MarkitコンポジットPMI(速報値)	1月	51.4	50.7	51.1
1/25	独IFO企業景況感指数	1月	100.7	99.1	101.0
1/31	GDP(速報値、季調済/前期比/前年比)	4Q	0.2%/1.2%	0.2%/1.2%	0.2%/1.6%

(資料) ブルームバーグ

## カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

ユーロ・ブル (1名、1.1300～1.1650、中心1.1300～1.1650)

藤巻	1.1300 ～ 1.1650	基本的にはレンジでの推移を想定するも、悲観的な材料を織り込みながらもユーロは底堅い。ドル売りが進むケースでは、ユーロのショートのカバーが入り、思いのほか上昇することもあるのではないだろうか。
----	-----------------------	---

ユーロ・ペア (9名、1.1200～1.1600、中心1.1200～1.1600)

田内	1.1200 ～ 1.1600	ユーロ圏の景況感悪化や経済の下方リスクへの警戒感、インフレ率の鈍化懸念が高まる中では、ユーロを積極的に買い進め難く伸び悩む展開を見込む。政治的にもマクロン仏大統領に対する不信任決議やドイツの連立政権から社会民主党が離脱するリスクが払拭されないことも上値を重くする要因となろう。
加藤	1.1200 ～ 1.1600	英国民がブレギットを諦めるとは考えにくい。その余波は程度の差があれユーロ圏には悪影響となろう。また域内の政治問題も払拭されるまでは至らず、実需のユーロ買いを抑えてユーロは頭を重く推移すると予想する。
閔	1.1250 ～ 1.1600	FEDのハト派シフトが織り込まれてしまった事で、経済減速が鮮明となっているユーロ圏の売り材料が目を引く。合意無き離脱の回避に向けた、英・EU間の厳しい交渉も続くと想定されユーロの上昇は想定し難い。
光石	1.1250 ～ 1.1600	ユーロ圏の景気状況が減速傾向にあることに加え、ブレギットや域内の政治問題等を引き続き抱え、ユーロの上値は重いものと予想しているが、ドルも利上げ休止観測が台頭する等弱気材料が多く、下値余地も限定的か。
岡本	1.1300 ～ 1.1600	ECB、FRBともに世界的な景気減速を受け様子見にスタンスを変更。動くとすれば政治絡みだが、Brexitや米中貿易戦争など簡単に解決するのは難しく、ゲームチェンジャーとはならないか。利上げも遠のく今、ユーロを買う材料に乏しくやや下目線としたい。
上野	1.1200 ～ 1.1600	米欧・中国など、各国において景気減速懸念が高まる中で、主要通貨での大きな動きは期待しにくいと考えている。一方で、域内の政局不安、ブレギット問題など、欧州固有の問題を抱えている中で相対的にユーロが強含む展開も想定しにくい。ユーロは引続き下値リスクを警戒すべき局面か。
玉井	1.1200 ～ 1.1600	英国のEU離脱期限が迫る中、離脱協議案は交渉の難航が想定されユーロの重石となると思われる。また、欧州の経済指標の悪化も目立っており、ECBドライ総裁もユーロ圏の経済下振れリスクへの懸念を示す等、年内利上げは難しくユーロは上値重いと予想する。
森谷	1.1200 ～ 1.1600	ユーロ圏の経済指標が冴えない結果となる中、ECBに対する利上げ期待は大きく後退している。英国のEU離脱を巡る問題についても依然として先行きが読みづらい状況が続いているが、ユーロは上値の重い推移となると予想する。
大熊	1.1250 ～ 1.1600	欧州経済の軟化は顕著となり、ECBは終了して間もない量的緩和の再開も視野に入れる等、ハト派な姿勢への変化が明らかとなつた。金融正常化が遠のいた上に、Brexitを巡るEUと英国との再交渉は不透明と、不安材料が多く、ユーロは軟調な推移を予想する。

## 英ポンド相場

### 予想レンジ:

GBP/USD 1.2100 ~ 1.3300  
GBP/JPY 130.00 ~ 146.00

欧州資金部 山本 泰平

### 先月の為替相場

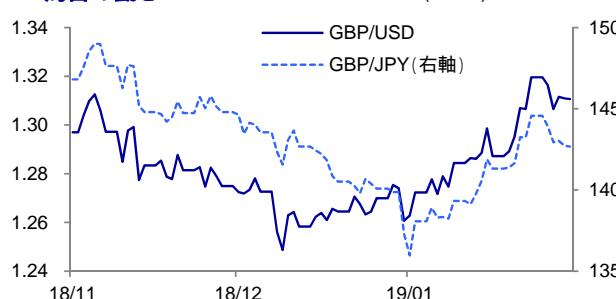
1月のポンドドルは、メイ首相案の否決を受け不透明感が剥落し、むしろEU離脱回避への期待感が浮上したことから、終始堅調に推移。1.2752でオープンし、正月三が日のフラッシュ・クリッシュを受け、一時的に1.2409に急落するも、直ぐ反転。経済指標では、英EU離脱を控えて、政治的不透明感から、英景況感が悪化。英12月建設業PMIが52.8(予想:52.9、前月:53.4)と、3か月ぶりの水準に低下。特に、商業建設は7か月ぶりの鈍い伸びと、影響が顕著だった。英消費の落ち込みも浮き彫りとなり、英サービス部門第4四半期売り上げが2年ぶりの低水準、英11月消費者向け融資の伸びは前年比7.1%と、15年3月以来の水準に悪化した。直接投資を巡っても、日製造業大手の、英原発建設計画の凍結決定等、英EU離脱の影響が示唆された。驚くべきは、これほど多くの指標、ヘッドラインで、景気減速が示唆されたものの、ポンドが思いの他、堅調に推移したことだろう。一月の目玉イベントは、なんといっても英首相EU離脱協定案の議会採決であったが、15日に賛成202票、反対432票の歴史的大差で同案は否決された。しかし、リスク回避ムードは全く広がらなかつたことを見ると、市場が「No Deal is Better than a Bad Deal(不利な取引なら、取引しないほうがいい)」と同案の否決を好意的に解釈したことが窺えた。翌16日、野党労働党から内閣不信任案が提出されたが、予想通り反対多数で否決され、特段の驚きは誘わなかつた。その後、メイ政権は、1月29日に代替案(いわゆる「プランB」)の投票を下院で行うと発表したが、否決が大差であったことを踏まえると、小幅な修正では承認に持ち込むことはできるはずもなく、特段の反応は見られなかつた。ところが、プランBを巡り、英労働党が23日、修正案を支持する可能性があると表明。DUP(民主統一党)が24日、バックストップに期限設定なら離脱案を支持すると英大衆紙から報道されると、合意なき離脱が避けられるとの観測が広がり、昨年10月來の1.3218までポンドは堅調に推移した。英労働党党首が2回目の国民投票支持に転じたことも、修正案が否決された場合、国民投票の実施を経て、離脱撤回を可能とする布石となり、ポンドは売りづらい雰囲気があった。

### 今月の見通し

英EU離脱の最終期限まで残り8週間となったが、29日の代替案下院採決を前に、英女王陛下が議会に対して演説し、共通点を探るよう仲裁を試みる程、政治的混迷を極め、いまだ事態を開拓する道筋は見えていない。英EU離脱「代替案」の採決を巡っては、DUPがメイ首相の離脱案支持を非公式に決定と報じたことを受け、今回の投票数は接戦となることが予想される。ただし過半数ギリギリなので、保守党に少しでも造反があれば、否決されることから、筆者は、今回も悲觀的な見方を崩していない。また、審議の中で、与野党議員から提出された修正案が採択されれば、現状3月29日とされる離脱期限が延長されることも注目を集めている。修正案は、既に与野党議員から広範な支持を得ており、下院議長から投票対象として選択されれば、可決される可能性が高い。EU高官によると、EU側も離脱延期に応じる用意があるようで、その方法について協議している様子。延期の期間については数週間から1年まで様々なシナリオが考えられているが、7月2日までに離脱しなければ欧洲議会選が必要になるため、3か月間程度の延長がメルクマールとなるだろう。市場も延期不可避との見方が大勢で、ポンド買い戻しが続いている。ポンド円は100日線に到達しており、145円前半の200日線が意識される展開。ただし、筆者は合意なき離脱のリスクは市場の織り込み以上に高いと考えていることから、上値でのポンド売りを推奨したい。英国では、1月からラジオやソーシャルメディアを活用し国民に無秩序離脱への備えを呼び掛ける取り組みが始まり、英世論もノーザン・デュール離脱止む無しとのムードは十分に醸成されている。1月に英保守党を対象に行なった世論調査で、ノーザン・デュール離脱が64%の支持を集め、メイ首相案の支持は29%、EU残留支持は15%に留まつた。保守党に限らず英国民を対象に行なった世論調査でも、メイ首相案が妥当と考えている有権者の割合はわずか18%に留まり、2016年の統計開始以来最低を記録した。英世論がノーザン・デュールに寛容になった証左と捉えてよいたまう。

米国に目を向けると、政府閉鎖の一時解除を可能にする暫定予算案が可決され、米株が好感している。過去の政府閉鎖終了後の米株の値動きを振り返ると、少なくとも数か月間は堅調に推移する傾向が強く、2月、ドルが対ポンドでも買われる可能性が高そうだ。

### 為替の動き



### 株価指数の動き



### 先月の注目イベント

発表日	イベント	(資料) ブルームバーグ
1/2	製造業PMI	期間 予想 結果 前回
1/3	建設業PMI	12月 52.5 54.2 53.6
1/4	サービス業PMI	12月 52.9 52.8 53.4
1/11	鉱工業生産(前年比)	12月 50.7 51.2 50.4
1/11	製造業生産(前年比)	11月 -0.7% -1.5% -0.9%
1/16	消費者物価指数(前年比)	12月 -0.7% -1.1% -0.7%
1/18	小売売上高(含自動車/前年比)	12月 2.1% 2.1% 2.3%
1/22	ILO失業率	12月 3.6% 3.0% 3.4%
		11月 4.1% 4.0% 4.1%

## 豪ドル相場

### 予想レンジ:

AUD/USD 0.7000 ~ 0.7400  
AUD/JPY 77.00 ~ 80.00

アジア・オセアニア資本部 シドニー室 今村 加奈子

### 先月の為替相場

豪ドルは0.6715へ瞬時の急落(1月3日)後、0.70台~0.72台で取引。

1月初旬、豪ドルは0.70半ばでオープン、予想より弱い中国Caxin製造業指数を嫌気し、貿易摩擦懸念から0.69後半へ下落した。3日、東京休場で薄商いの中、世界景気懸念が強まりストップロスを巻き込み豪ドルは瞬時に安値0.6715まで急落したが、直ぐに0.69後半へ急伸し豪ドルは0.70近辺へ戻した。大荒れの相場つきで市場は神経質な様相ながら、欧米株式の反発とFEDパウエル議長の「柔軟な金融政策が可能」のハト派的な発言を受けドル売り、豪ドルは0.71前半へ上昇した。9日、FOMC12月議事録では「多数のメンバーが将来の利上げに忍耐を持つことが可能」と表明、米金利引上げに慎重な態度からドル売り、豪ドルは0.71後半へ値を伸ばした。

1月中旬、予想より若干高い豪州11月小売売上高を好感し、豪ドルは0.72前半まで上昇。英国下院で欧州連合離脱協定案は否決されたが、市場ではその結果が予想されていただけに大きな動意とはならず、豪ドルは0.72を挟んだ商いが続いた。多くのFED要人から米利上げに対しハト派的な発言が出る中、豪ドルは0.71後半から0.72前半での取引がみられた。

1月下旬、発表された中国経済指標はミックスした結果で豪ドルへの影響は限定的、豪ドルは0.71後半で取引された。国際通貨基金(IMF)の世界景気見通し(2019年3.5%)の下方修正は注目を集め、世界景気後退懸念は豪ドルの上値を重くし0.70後半まで押し下げた。その水準では豪ドル買い意欲散見され0.71台へ戻し、30日の豪州2018年10~12月CPIが予想より高い前年比1.8%を好感して0.72近辺まで上昇した。同日、FOMC声明では利上げ様子見姿勢が強調されドル売り、豪ドルは0.72後半まで上昇した。

### 今月の見通し

2月の豪ドルは、0.71台~0.73台中心の取引を予想。

先月、FOMCは利上げに忍耐強い姿勢を示したことからドル売り強まり、豪ドル上値トライへやや傾いている。しかし、市場では世界的な通商問題、英国のEU離脱の行方、世界景気減速懸念など不安定な状況を受け、世界景気に左右されやすい豪州の通貨豪ドルへ下方圧力をかけている。

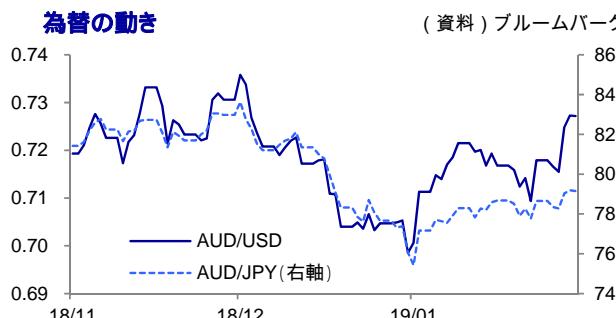
米中通商問題の協議期限は2月末であり、通商交渉の進展に焦点があつていて。通商問題解決の場合は景気促進効果から豪ドルは買い戻されやすい一方、紛糾/米国から中国へ追加関税の場合はリスクオフで豪ドルは売りに押されやすいだろう。

英国のEU離脱を今年3月末に控える中、先月中旬に英議会でEU離脱案は否決された。今後の交渉/進展次第では英国はハードランディングの可能性もあり、金融市場に与える影響も多大であることからその行方は注目されている。

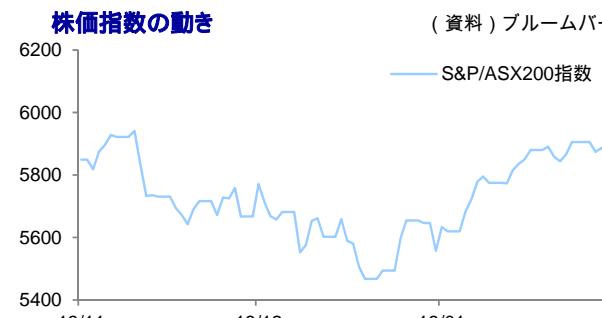
豪州金融政策において、市場動向に変化あり。市場はしばらく政策金利1.50%据置予想だけでなく、豪州住宅価格下落や世界景気後退予想などを受け今年6月に0.25%利下げを2割ほど予想、今年11月にその利下げを5割予想している。豪州景気/世界景気後退懸念から非常に神経質になつているのが窺え、豪州経済指標は金融政策に絡んで注目を集めるだろう。豪州利下げ観測がさらに広まる場合は、豪ドルへ下方圧力をかける。

今月の豪ドルはここ6か月間の高値となる0.7394をテストできるか。あるいは下値サポート水準0.7055をテストとなるか注視される。

### 為替の動き



### 株価指数の動き



### 先月の注目イベント

発表日	イベント
1/8	貿易収支
1/9	住宅建築許可件数
1/11	小売売上高
1/24	就業者数
1/24	失業率
1/24	労働参加率

### (資料) ブルームバーグ

期間	予想	結果	前回
11月	A\$2175M	A\$1925M	A\$2013M
11月	-0.3%	-9.1%	-1.4%
11月	0.3%	0.4%	0.3%
12月	18千人	21.6千人	37千人
12月	5.1%	5.0%	5.1%
12月	65.7%	65.6%	65.7%

## カナダドル相場

### 予想レンジ:

USD/CAD 1.3000 ~ 1.3500  
CAD/JPY 80.00 ~ 85.00

グローバルマーケット業務部カナダ室 三木 順一郎

### 先月の為替相場

1月は12月に一方向に進んだリスクオフの巻き戻し相場、USD/CADも月初から大幅に下落し12月の上昇を巻き戻す展開。月間高値は1.3663(1/2)、月間安値は1.3119(1/30)と、12月同様に値幅も伴ったものとなった。

12月の買い手不在のリスクオフから、投資家のリスクアペタイトは徐々に回復、原油価格も先月一時42ドル台の安値を受けたところから45ドル台を回復しカナダドルのサポートとなる。USD/CADは2日に1.35台、3日1.34台、4日1.33台、7日には1.32台と急速な巻き戻しが見られた。

4日にはパウエルFRB議長がパネルディスカッションにおいて先月FOMCでのスタンスから一転、「金融政策に決められた道筋はなく、必要に応じて迅速に政策を調整する」、「最近もFRBは2016年のFinancial Conditionのタイト化を背景に利上げをほぼ1年間見送った事例もある」と今年の利上げペースを明らかに調整する意図を示したことから、リスクオフの巻き戻しに拍車がかかった。

9日のカナダ中央銀政策金利決定会合では市場予想通り政策金利は1.75%で据え置き、声明文においても12月に大きく変更したハト派スタンスを維持。昨年10月以来のオイル価格下落を受け景気も減速しており、金融政策の正常化を急ぐ必要がない旨が示された。概ね事前予想通りながら、ハト派な内容を受けたリスクセンチメントの更なる改善期待からUSD/CADは一時1.31台を付けた。

30日の米FOMCにおいて、B/S政策の調整は景気及び金融市場の動向に応じて柔軟に調整される、声明文においても金融政策の調整には“Patient”という文言も追加、非常にハト派な内容となつたことからドル安が進行、USD/CADは月間安値1.3119を付ける展開であった。

### 今月の見通し

12月に期待されたFRBのハト派なスタンスが1ヵ月遅れで確認され、昨年末の過度なリスクオフは巻き戻される結果となった。FRBに振り回された1か月半となつたが、スタンスを明らかにハト派なものに変更した今、カナダ中央銀行とともに当面の利上げは想定されない。原油を含めたグローバル株式市場が落ち着いており、経済指標もまずまずであれば利上げ再開が検討されようが、逆にそがらないと利上げ再開はないということである。

過度なリスクオフの巻き戻しも落ち着いてはいるが、グローバルに中央銀行のスタンスはリスク資産にフレンドリー。一方で指標は冴えないものも予想されるが、ある程度は織り込み済み。米国と中国の貿易摩擦は3ヵ月の猶予期間の期限である3月1日を控え緊張感、市場の注目度も高まろうが過度に悲観的なシナリオも想定せず、一進一退を予想。

カナダではアルバータ州でのオイル日量0.325mioの減産が2、3月は緩和されることになった。カナダ西部での景気スローダウンが予想以上に大きく数値を表れてくることがリスクであるが、基本的には1.3台前半での揉み合い推移を想定。

### 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の定番ランチやファストフード』

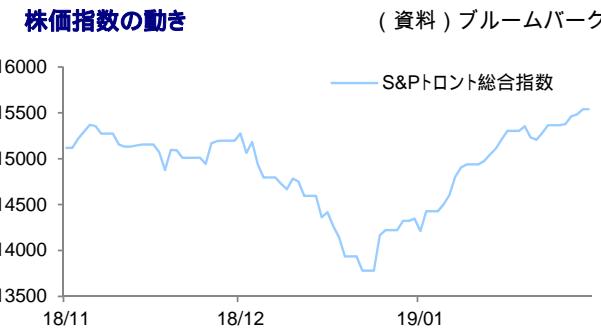
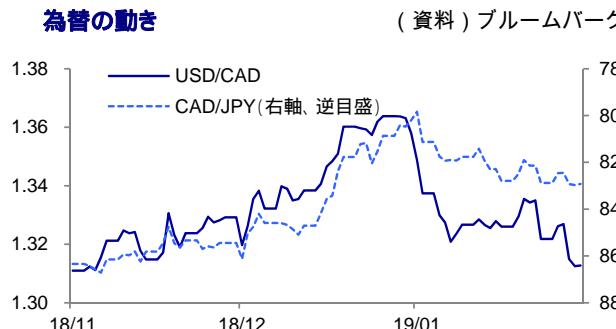
正直カナダはこれ、っていうのがありません。私のカナダ経験が浅いが故かもしれません、名物料理は何?と聞かれてもいつも困ってしまいます。

唯一これだっていうのは(いわれているのは)、「Poutine」(プティーン)だと思います。ランチではないですが、簡単に言うとチーズとグレービーソースがかかったフライドポテトです。

カナダはケベック州が発祥のようですが、トロントでもフードコートに行けばどこでも食べられます。値段は一人前6~10カナダドルくらいでしょうか。

このプティーン、ご想像のとおり強烈なカロリー摂取となります。一人前で大よそカレーライス一杯と同じくらいのカロリー。。マクドナルドのフライドポテトのようにちょっとサイド的に、とオーダーすると食べ切れなくなることがあります。

ただかなり美味しいのも事実、写真で見るとついオーダーしたくなります。カナダにいらっしゃった際には是非(といつてもそんなに珍しいものでもないのかな。。)。



### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/4	失業率	12月	5.7%	5.6%	5.6%
1/4	雇用者数変化	12月	10.0k	9.3k	94.1k
1/4	平均時給変化 (前年比年率)	12月	1.6%	1.5%	1.5%
1/8	貿易収支	11月	-2.15b	-2.06b	-0.85b
1/9	住宅着工件数	12月	205.5k	213.4k	224.3k
1/9	カナダ中銀政策金利	1月	1.75%	1.75%	1.75%
1/18	消費者物価指数(前月比)	12月	-0.4%	-0.1%	0.3%
1/18	消費者物価指数コア(前年比年率)	12月	1.9%	1.9%	1.9%
1/23	小売売上高(前月比)	11月	-0.6%	-0.9%	0.2%
1/31	GDP(前月比)	11月	-0.1%	-0.1%	0.3%

## 韓国ウォン相場

### 予想レンジ:

<b>USD/KRW</b>	<b>1090</b>	~	<b>1140</b>	
<b>KRW/JPY</b>	<b>9.524</b>	~	<b>10.000</b>	(注)100韓国ウォンあたりの対円レート
<b>JPY/KRW</b>	<b>10.000</b>	~	<b>10.500</b>	

ソウル資金室 下山 泰典

### 先月の為替相場

先月のUSD/KRWは、比較的狭いレンジ内でもみ合った後、月末にかけて下落した。月初は1115.00でオープン。同日は比較的静かな動きに終始したが、3日には米大手ITの弱い決算を受けたリスクセンチメントの悪化やJPYに絡むフラッシュクラッシュ、前日の中国Caixin製造業PMIの弱い結果の余波などを受けてウォン安に傾斜、月高値となる1130.10まで上昇した。その後は、7-8日の米中貿易協議への期待等を受けながらもみ合ったが、8日には韓国IT大手の4Qの不芳な業績が報じられ1125台までウォン売りとなった。それでも10日に発表された12月FOMC議事要旨のハト派的な内容がドル売りを呼び、1115台まで下落した。

14日に公表された中国12月貿易統計で輸出/輸入ともに前年比マイナスとなっていることが明らかとなると、1123台まで上昇するなど上下。その後、15日には中国が大規模減税等の景気刺激策を実施する方針が報じられたほか、18日には同国が2024年まで対米貿易黒字をゼロにする計画を発表するなどの材料が出てきたものの、相場にトレンドを与えるほどのインパクトはなかった。

21日には、中国の10-12月期GDPが28年ぶりの低成長になったほか、海外時間にはIMFが公表した世界経済見通しで米中貿易摩擦等を懸念し2019年・2020年と成長率が下方修正されたことなどが嫌気され、22日にかけて月高値となる1131.50まで上昇した。その後、25日には米政府機関の一部閉鎖が2月15日まで限定的ながらも解除されたことや、FEDのバランスシート縮小規模が想定よりも小さい規模に留まる可能性が報じられたことでリスクセンチメントの改善ならびにドル売りとなり、28日にかけて一時1115割れまで下落した。その後、30日のFOMCで大きくハト派寄りのスタンスが示され、31日は月安値となる1108.60まで下落し、1112.70でクローズした。

### 今月の見通し

今月のUSD/KRWは、やや上値の重い印象を伴いつつも、結局レンジ内の推移を予想している。

材料としてはこれまでと大きな違いは無い認識だ。米中貿易摩擦、米国の予算に絡む問題、米金融政策などが主なところだろう。米中間の問題については中国からの譲歩が様々報じられており、人民元相場をはじめとするアジア通貨に影響を及ぼす局面もあるが、問題の規模が大きく一朝一夕で解決するものではないため、市場としてはやや反応が小さくなっている印象もある。1月30-31日の米中貿易協議の観点からは、最終的にはトランプ大統領が習主席と会談して決着させる意向を示したほか、3月1日の協議期限を延長する可能性にも言及した。次に繋がる会談にはなったが、決定的なインパクトには欠けるため、短期的にはやや緩慢とした影響に終始しそうだ。本問題が企業業績や各国の経済指標に影響している部分が出てきているため注意は要するものの、一旦は市場は落ち着いて静観するとみている。

米国の予算問題については、「ねじれ議会」になっている影響が如実に現れている印象だ。2月15日を期限として一旦は政府閉鎖が解除されたものの、トランプ大統領は依然としてメキシコ国境の壁の予算確保を強硬に主張しており、再び政府閉鎖に陥るリスクは決して低くないだろう。加えて、1月のFOMCで米金融政策が明確にハト派寄りに舵を切られた。かかる状況を勘案すれば、2月はドル売りに傾斜しやすい地合いが醸成されやすいとみている。

以上を勘案、基本的にはドル売り要因からUSD/KRWの上値は押さえられやすいと考えているが、リスクセンチメントも不安定である中では一方向の動きとはならないだろう。引き続き米中貿易協議には注意を要する(ほか)、今月末には米中首脳会談も予定されており不安定な動きには警戒が必要だが、基本線はやや上値の重い印象を伴ったレンジ内の推移と考えている。

### 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の定番ランチやファストフード』

韓国での定番料理といえば、チゲなどのスープと一緒に楽しむものが一般的でしょうか。例えば、日本人スタッフがよく行くところとしては、テジックッパ(豚肉クッパ)やサムゲタン、(辛くない)チゲが有名どころで、あとはもちろんチヂミもありますし、日本食(天丼や焼き魚定食)や、パスタ、ナンと一緒に食べるインドカレーなんかも人気です。

そんな韓国ですが、一般的な韓国料理のお店に行くと、食事が出てくるまでの時間がとても短いことに気づきます。

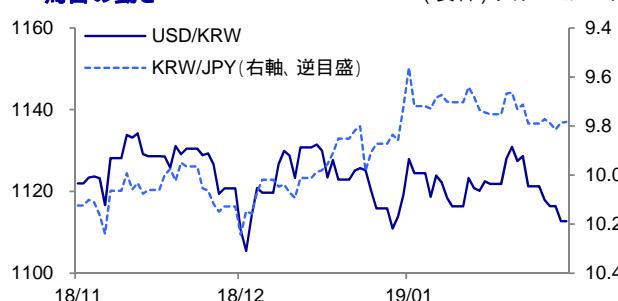
なぜか。それは、韓国のお店のそれぞれが、特にお昼ご飯のタイミングでは、1品集中で振舞っているから。

例えば、先ほど挙げたテジックッパのお店。もちろん他にもメニューはあるんですが、お店で注文するときには「ハップ・タロ・ネギ・ジュセヨ(=ご飯は別で4つください)」と、肝心の「テジックッパ」と言わずともテジックッパのご飯別バージョンが4つ出てきます。チヂミ屋さんでは、よくチヂミとカルグクス(どんみたいなもの)をそれぞれお願いするのですが、「トゥゲ・トゥゲ・ジュセヨ(=2つずつください)」で、チヂミとカルグクスが2つずつ出てくるんです。何だったら、本当に1品集中でやっているお店もあり、座った瞬間に何も言わずに食事が運ばれてくるお店もあります(笑)

日本で外食をする場合、お昼と言えど10分程度は待つこともザラだと思いますが、一般的な韓国料理のお店ではほぼ確実に5分以内には食事が出てきます。

お昼に限って言えば、定番ランチ=ファストフードかもしれません(笑) (下山)

### 為替の動き



### 株価指数の動き



### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/1	輸出(前年比)	12月	2.5%	-1.2%	4.5%
1/1	輸入(前年比)	12月	4.0%	0.9%	11.4%
1/8	経常収支	11月	-	\$5063.4M	\$9190.3M
1/9	失業率	12月	3.9%	3.8%	3.8%
1/22	GDP(前年比/速報値)	4Q	2.7%	3.1%	2.0%
1/24	BOK金融政策公表	-	1.75%	1.75%	1.75%
1/31	鉱工業生産(前年比)	12月	-	1.6%	0.1%

### ( 資料 ) ブルームバーグ

## 台灣ドル相場

### 予想レンジ:

USD/TWD    30.50 ~ 31.10  
TWD/JPY    3.45 ~ 3.65

台北資金室 三浦 勇二

### 先月の為替相場

1月のドル/台湾ドル相場は、ドル高台湾ドル安。

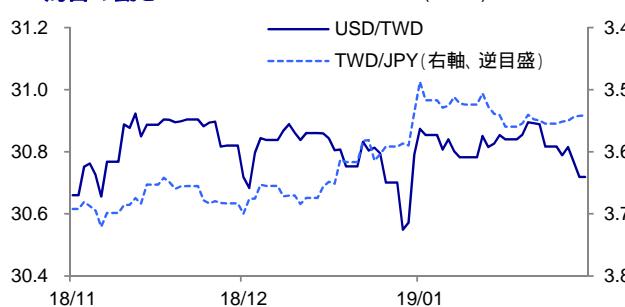
月初1/2のドル/台湾ドルは30.735でオープンすると、輸出企業によるドル売り取引の増加などを背景に台湾ドル買い先行の展開となり、30.635の1月の安値をつけるも、株安からリスクオフの動きが強まる中、台湾ドル買いの流れは長くは続かず、反発。台湾株から海外資金の流出が続いたこともあり、1/3にかけては30.903の高値まで急伸した。

しかしながら、1/7~8に米中次官級通商協議が開催されるとの報道や、米12月雇用統計の結果が市場予想を上回る強い結果となったこと、パウエルFRB議長が利上げペースを鈍化させる可能性を示唆したことなどから、市場参加者のリスク回避姿勢が後退すると、1/7には株高とともに30.7台半ばまで再び台湾ドル高が進む形となった。

その後、月半ばにかけては、ドルが堅調に推移する中、ドル/台湾ドルも徐々に下値を切り上げ、じりじりと上昇する展開となった。1/15に行われた英議会のEU離脱案の採決は、与党・保守党内の強硬離脱派に加え、政権に閣外協力する民主統一党(DUP)の反対から大差で否決されるも、事前予想通りであったことから市場への影響は限定的で、その後もドル買いの流れは変わらず。一方、ドル高台湾ドル安が進む場面では輸出企業のドル売り意欲も強く、上値は押さえられたことから、ドル/台湾ドルのドル高のペースは緩やかなものとなった。

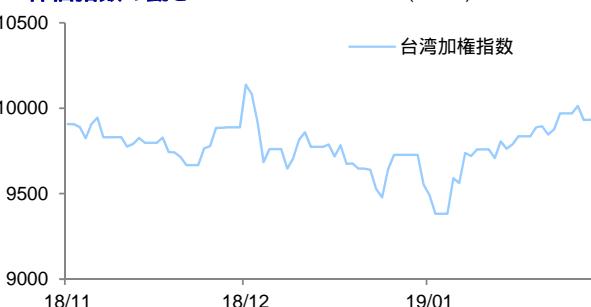
月後半に入り、1/22には約3週間ぶりに30.9台に乗せる場面もみられたが、月末にかけては、輸出企業のドル売りフローの増加や、台湾株への海外資金の流入が膨らんだことから、ドル/台湾ドルは上値の重い推移となり、軟化した。

### 為替の動き



(資料) ブルームバーグ

### 株価指数の動き



(資料) ブルームバーグ

### 先月の注目イベント

発表日	イベント
1/4	外貨準備高
1/7	輸出(前年比)
1/7	輸入(前年比)
1/7	貿易収支
1/8	CPI(前年比)
1/21	輸出受注(前年比)
1/22	失業率
1/23	鉱工業生産(前年比)
1/31	GDP(前年比)

(資料) ブルームバーグ

期間	予想	結果	前回
12月	-	461.78B	461.38B
12月	-5.10%	-3.00%	-3.40%
12月	-0.30%	2.20%	1.10%
12月	4.70B	4.71B	4.65B
12月	0.20%	-0.05%	0.30%
12月	-3.60%	-3.60%	-2.10%
12月	3.70%	3.70%	3.69%
12月	0.35%	-1.22%	2.36%
Q4	2.10%		2.27%

### 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の定番ランチやファストフード』

台北のランチで安くボリュームもあるということで人気を集めているのが、台北市政府や中国石油などの大手企業の社員食堂です。社員食堂といつても、社員でなくとも利用可能で、値段は100台湾ドル(約350円)以下。加えて、ご飯とスープはお変わり無料ですので、安く、ボリューム満点のランチを楽しむことができます。

また、台湾ではテイクアウトが利用されることも多いですが、その中で人気なのが池上便当(「便當」は台湾では弁当の意味)です。台湾東部に位置し、台湾を代表する米の産地・池上で生まれた弁当で、池上米はその昔、日本の皇室へ献上していたとも言われており、台湾での知名度は非常に高いです。当初は駅弁として売られていたましたが、現在は個人商店からチェーン店まで広く池上便当を扱っており、台湾のいたるところに店舗がみられます。お店により異なりますが、池上米の上にチキンなど数種類のおかずが乗せられているのが一般的で、特徴は弁当箱が木の箱であることです。保湿性、抗菌性などの点で優れているということのようです。

## 香港ドル相場

### 予想レンジ:

USD/HKD **7.8300 ~ 7.8500**  
HKD/JPY **13.70 ~ 14.10**

香港資金部 Ken Cheung

#### 先月の為替相場

##### 【1月の香港ドル直物相場】

先月の香港ドル相場は、先月の7.83香港ドルレベルから2か月半ぶりの安値水準の7.847香港ドルまで緩やかに下落し、その後はバンドの下限である7.85香港ドル近辺での推移となっている。9月に香港ドルプライムレートの利上げが開始されたものの、その後の利上げペースが非常に緩やかである為、米金利と香港ドル金利の金利差が拡大。香港ドル売り、米ドル買いのキャリートレードが選好され、且つ香港からの資本流出も相俟って香港ドルは下落した。米ドルと香港ドルの金利差が拡大したため、1年物の香港ドルのフォワードポイントは、9か月ぶりの水準の▲600ポイントまで下落。FRBの利上げの一時停止観測は、香港市場の資本維持には影響を与えたかったが、中国と香港の経済見通しは、米中の貿易戦争の間に悪化している。

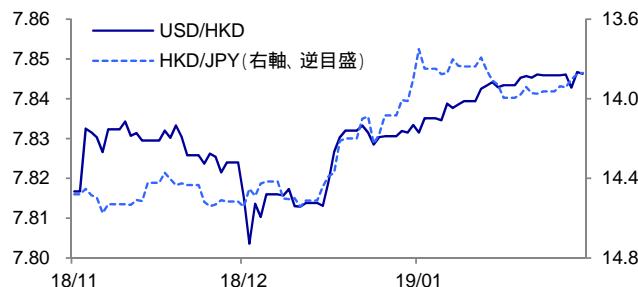
##### 【1月の香港ドル金利市場】

市場参加者は、香港の市中銀行がFRBの利上げに追随しなかったことに加えて、FRBの利上げサイクルの停止観測を受け、香港ドル金利の利上げに対する期待を後退させた。1か月物と3か月物の香港ドルHIBORは、年末の香港ドル調達需要が剥落し、それぞれ2.2%、2.3%から1.2%、1.8%まで低下した。香港ドル金利が大きく低下したことにより、米ドルと香港ドルの金利差は拡大し、1か月物および3か月物の金利差はそれぞれ110bpsおよび50bpsから▲130bpsおよび▲100bpsへ大きく変化した。香港ドルの流動性は安定しており、HKMAの決済性預金残高は764億香港ドルのままで変化は無かった。長期ゾーンについては、3年物・5年物の香港ドルIRS金利は、それぞれ2.2%・2.3%ほぼ変わらず。香港ドルの株式が回復しているにも関わらず、IPOは2019年1月も静かで、流動性の状況は変わらずだった。

##### 【1月の香港株式市場】

FRBのハト派化により、世界的にリスクオン地合いとなったことを受けて、ハンセン株価指数は24,897ポイントから27,000ポイントを超えて回復した。中国の景気減速に対する懸念が高まっているが、中国当局は財政刺激策を強化を決め、PBOCは預金準備率(RRR)引き下げによる緩和策を追加した。中国当局による、財政刺激策の拡大に対する期待の高まりは、ハンセン指数の回復を加速させた。

#### 為替の動き



(資料) ブルームバーグ

#### 株価指数の動き



(資料) ブルームバーグ

#### 先月の注目イベント

発表日	イベント
1/4	日経香港PMI
1/7	外貨準備高
1/17	失業率(季調済)
1/22	CPIコンポジット(前年比)
1/28	輸出(前年比)
1/28	輸入(前年比)
1/28	貿易収支(HKD)
1/31	財政収支(香港ドル)
1/31	マネーサプライM2(HKD/前年比)

(資料) ブルームバーグ

期間	予想	結果	前回
12月	--	48.0	47.1
12月	--	\$424.6b	\$423.2b
12月	2.8%	2.8%	2.8%
12月	2.5%	2.5%	2.6%
12月	-1.7%	-5.8%	-0.8%
12月	-2.1%	-7.0%	0.5%
12月	-57.5b	-51.2b	-45.0b
12月	--	--	18.2b
12月	--	--	3.4%

『当地の定番ランチやファストフード』  
大抵の香港の人々は昼食時間がかなり短く、忙しい彼らにとって、ファストフードは有力なランチの選択肢となっている。一方で、香港の人々は有名なファーストフードチェーンや、香港式の伝統的なカフェレストラン「チャーチャンテン」に飽きてしまっていることもあって、最近は「ライスヌードル」の人気が上昇しており、店の前に長い行列が出来ていることを良く目にする。これらの「ライスヌードル」店では、普通の味から非常に辛いものまで様々な種類のスープを選ぶことができ、更に肉や野菜を選んで自由にトッピングする。辛いヌードルを食べれば、気持ちもリフレッシュされて、午後の業務もきっと捗ることでしょう。

## 中国人民元相場

### 予想レンジ:

<b>USD/CNY</b>	<b>6.6000</b>	<b>~</b>	<b>7.0000</b>
<b>CNY/JPY</b>	<b>15.00</b>	<b>~</b>	<b>16.82</b>
<b>100JPY/CNY</b>	<b>5.9500</b>	<b>~</b>	<b>6.6700</b>

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 矢野 慧

### 先月の為替相場

#### 【為替相場】

1月のドル/人民元相場は、米中通商協議進展への期待感からドル安人民元高が進行。

月初、欧州の経済指標悪化を受けて、ユーロ安ドル高の動きが強まつたことや昨年末に発表された中国製造業PMIが50割れとなったことを受けて、ドル/人民元は一時、6.88を超える水準まで人民元安が進行。その後米アップル社の業績下方修正で資産価格の下落がグローバルに波及する中、ドル売りが進み6.86台ば迄値を戻した。4日には中國人民銀行が預金準備率引き下げを発表。これによりリスク選好度が高まったことや、米FRBパウエル議長のハト派な発言を受けて、ドル/人民元は6.85付近まで水準下げた。米中次官級協議では中国による米国産の農産物やエネルギーの購入拡大について話し合われるなど、米中通商問題に対して、一定の進展が見られたことや、米金融当局者が相次いで追加利上げに対して慎重な姿勢を示したことで、ドル/人民元は6.74台迄元高が進行。

21日に発表されたIMF世界経済見通しでは成長率予想が引き下げられ、リスク回避の動きから一時的にドル買いが強まり、6.81を超える水準へ。その後中国10-12月期GDPが発表され、+6.4%となったものの、市場予想通りであり相場への影響は限定的だった。

月の後半には英国の合意無き離脱への懸念が後退することでポンドやユーロを中心にドル安が進んだことや、米中通商交渉の進展期待、米政府機関閉鎖終了への期待感から上海株が上昇する中、6.73台まで人民元高が進行した。

#### 【金利相場】

預金準備率の引き下げ、人民銀行の資金供給により、潤沢な流動性が維持され、マネー金利は低位安定推移。

4日の預金準備率引き下げ発表を受けて、資金市場の地合が大幅に緩和。O/N物や期間の短いターム物が大幅低下するも、資金供給オペレートを下回る水準になると反転。その後も短期ゾーン金利は税揚げの影響等もあり上下する展開。春節を超えるターム物については、資金需要が意識されるも緩和的な地合が継続していたこともあり低位安定推移。

### 為替の動き



(資料) ブルームバーグ

### 株価指数の動き



(資料) ブルームバーグ

### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/10	PPI(前年比)	12月	1.6%	0.9%	2.7%
1/10	CPI(前年比)	12月	2.1%	1.9%	2.2%
1/14	貿易収支(RMB建)	12月	345.00Bio	394.99Bio	286.08Bio
1/14	輸出(RMB建)前年比	12月	6.6%	0.2%	8.7%
1/14	輸入(RMB建)前年比	12月	12.0%	-3.1%	7.7%
1/21	小売売上高(前年比)	12月	8.1%	8.2%	8.1%
1/21	鉱工業生産(前年比)	12月	5.3%	5.7%	5.4%
1/21	GDP(前年比)	4Q	6.4%	6.4%	6.5%

(資料) ブルームバーグ

### 今月のつぶやき(現地からの声)

#### 『当地の定番ランチやファストフード』

中国にもマクドナルドやケンタッキー、バーガーキングなどの世界大手ファストフード店が進出しています。これらのお店もそれなりに人気がありますが、やはり当地の定番ファストフード店といえば、「真功夫」ではないでしょうか。大きく描かれているブルース・リーをイメージしたカンフーの絵が特徴的なお店です。ちなみに店の看板にもなっている絵の人物は微妙に顔が違うブルース・リー本人ではないようです(気になる方はネットで検索してみて下さい)。ファストフードというと、中国でもほかの国同様にハンバーガーやフライドチキンなど欧米系の食事が多い中で、早い段階から中華料理のファストフード店として有名であり、中華料理を「注文から60秒で提供」がモットー。中国国内でこれが可能なファストフード店は、マクドナルド、ケンタッキー、そして真功夫だけらしいです。料理も牛肉の炒め蒸しやビーフン類、お粥まで中華料理なら一通り揃っています。更に中華料理は量が多くて一人だと食べきれないところも多いですが、量も適量なので1人でも安心して注文できます。朝食や急いでいるとき、小腹が空いたときなどに良く利用される当地でも有名なファストフード店です。

さらに当地ではフードではないですが、お茶のティーアウトのお店が豊富です。最近では「喜茶 HEYTEA」というお茶専門店が人気があり、オープンした当初は、7時間待ちの行列や代行購入なんて仕事が生まれた程の当地人気店。人気の秘密はインスタ映えする綺麗な見た目。中国の方もインスタ映えは気にしているようです。その他にもお茶のお店は豊富で、街中でお茶を片手に歩いている人を良く見かけます。是非中国に来られた際には、是非中国ならではのファストフードをお楽しみ下さい。

## シンガポールドル相場

予想レンジ:

USD/SGD 1.3400 ~ 1.3750  
 SGD/JPY 79.00 ~ 82.00

アジア・オセアニア資本部 前川 真也

### 先月の為替相場

1月のシンガポールドル(SGD)相場は、1.35台前半から1.36台半ばでのレンジ推移となつた。

第1週、2日貿易産業省が発表したシンガポール10~12月期GDP(速報値)は、市場予想では前期比+3.6%、前年比+2.5%に対して、実績値は前期比+1.6%、前年比+2.2%と予想を下回る内容となり、シンガポール経済が2018年終わりにかけて鈍化を示す内容となつた。世界的な通商摩擦や金利上昇が輸出依存型の同国へ影響を与えたと考えられる。これを受けでSGDは1.36後半まで下落するも場面見られた。3日、4日はフラッシュクラッシュを経て、SGD含め新興国通貨は大きく反発、SGDは1.36割れとなつた。

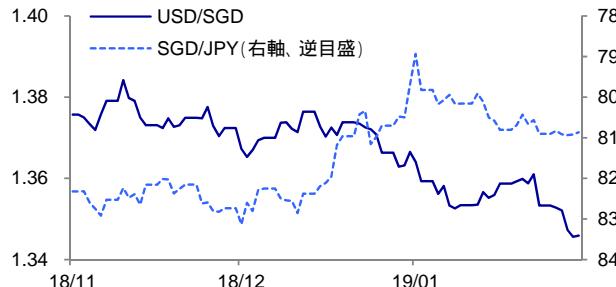
第2週、7日以降は一段とドル安SGD高が進行。パウエルFRB議長が5日の講演でバランスシート政策を調整する用意があると示唆したことにも加え、中国の景気対策や米中協議進展への期待感からCNYが急上昇する動きにSGDも上昇する展開となり、1.35台前半まで買われた。

第3週、14日発表された中国12月貿易統計が市場予想を下回り、米中貿易摩擦の影響により中国の景気減速が懸念されたことから、SGDは軟調な推移となつた。15日、中国人民銀行の朱副総裁が預金準備率を引き下げても為替相場の安定を維持できると自信を持って述べたことでSGD含むアジア通貨が買い戻された。16日以降は、英国のEU離脱への不安や世界経済に対する懸念がリスク志向を低下させる中、SGDは小動きにとどまつた。

第4週、21日、22日は、ドル高が進行する流れにSGDは1.36台前半まで売られた。中国が対米貿易黒字を6年間で解消する計画を米国に提示したと報じられたことが材料視された。23日から週末にかけては、米政府機関閉鎖解除に向けて法案可決を実施との報道がドル買いが優勢となつた。

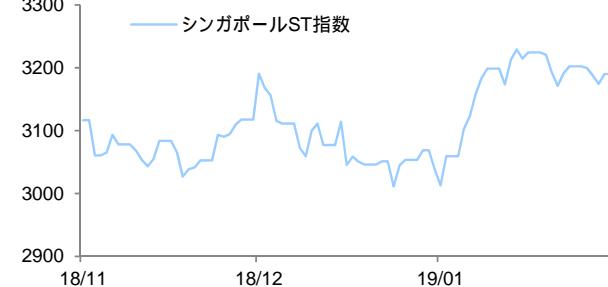
第5週、週末に予定されている米中通商協議の交渉進展への期待が高まる一方、30日のFOMCを前に、当初より早くFedがバランスシート縮小を終了するとの見方からドル売りが強まり、SGDは1.35台前半まで上昇する展開となつた。

### 為替の動き



(資料) ブルームバーグ

### 株価指数の動き



(資料) ブルームバーグ

### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	GDP速報値	4Q	2.5%	2.2%	2.3%
1/3	購買部景気指数	12月	-	51.1	51.5
1/11	小売売上高(前年比)	11月	-2.4%	-3.0%	0.1%
1/17	非石油地場輸出(前年比)	12月	2.0%	-8.5%	-2.8%
1/23	CPI(前年比)	12月	0.3%	0.5%	0.3%
1/25	鉱工業生産(前年比)	12月	4.0%	2.7%	7.6%

(資料) ブルームバーグ

## タイバーツ相場

予想レンジ: **USD/THB 30.80 ~ 32.00**  
**THB/JPY 3.40 ~ 3.60**

バンコク資金室 井上 由貴

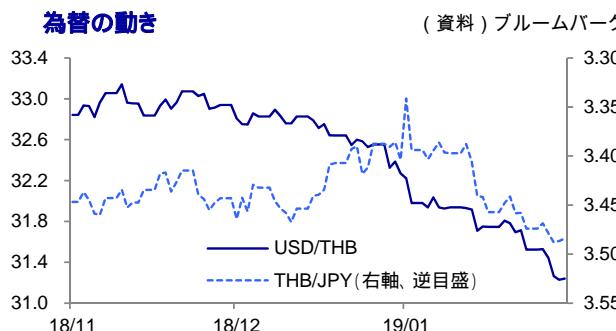
### 先月の為替相場

○ドルバーツは月を通して大幅下落。  
上旬、ドルバーツは32の大台を割り込み下落。年初2日、32.40近辺で取引を開始。同日に発表された12月消費者物価指数(CPI)は前年比+0.36%となり、市場予想の同+0.94%を大きく下回る結果となるも反応は限定的。12月後半からのドル安基調が継続し、ドルバーツは上値重く推移した。3日の朝方には米通信機器大手が減収予想を発表したことをきっかけにドル円が急落を見せる中、ドルバーツも連れて32.10を割り込む。流動性が低い中でフロードリブンで荒い動きとなつたが、4日以降徐々に市場参加者が戻ってくると、米中通商交渉への楽観的な見方を背景に人民元高が進行したことと相まって、32.00を割り込んだ。9日の海外時間にFOMC議事要旨(12月18~19日開催分)が公表され、内容が声明文よりもハト派であったことや、議事要旨公表前にFRB高官よりハト派のコメントが相次いでいたことからドル売りが優勢の展開となりドルバーツも31.90台前半まで続落。

中旬、ドルバーツは続落。10日から11日にかけては、米利上げ先送りへの思惑を背景として株式相場が上昇しリスクオンムードとなつたことや、米中通商交渉への楽観的な見方から人民元が買い込まれたことで相関性の高いバーツも買われる展開となり31.90割れ。しかし、週明け14日に発表された中国12月貿易統計において、輸出入とも予想外に前年比マイナスに沈み、中国景気先行き不透明感から人民元が反落するとドルバーツも再び31.90台後半まで戻した。その後15日には中国金融当局者から財政支出の拡大と減税についての言及があり、期待感から人民元が買い戻される展開に、16日にかけてドルバーツは31.60台後半まで下落。17日のドルバーツは31.70近辺で取引を開始。特段材料がない中、前日直近安値をブレークしたということもあり、上値が重い状況が継続。しかし米国株式市場が堅調な中ドルにも買戻しが入っており、ドルバーツは31.60を下値にその後はじりじりと上昇する展開。

下旬、31.50割れまで下落。21日に商務省が発表した12月貿易統計では、輸出額が2か月連続で前年比マイナスの結果となった。23日には中銀から為替に関する声明が出され、企業に対し「為替リスクのコントロールをすべき」とのメッセージが発せられた。中銀による介入への思惑が高まる中、ドルバーツは節目である31.50を割り込んだ。30日にはFOMCの声明文内容がハト派となつたことで一段とドル売りが進行し、31.20台前半まで下落した。

### 為替の動き



(資料) ブルームバーグ

### 株価指数の動き



(資料) ブルームバーグ

### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	消費者物価指数(前年比)	12月	0.94%	0.36%	0.94%
1/2	CPIコア(前年比)	12月	0.70%	0.68%	0.69%
1/4	消費者景気信頼感指数	12月	-	66.3	67.5
1/31	輸出	12月	-	-1.6%	0.2%
1/31	輸入	12月	-	-6.7%	16.2%
1/31	貿易収支	12月	-	\$2484M	\$664M
1/31	経常収支	12月	\$ 1103M	\$ 5027M	\$ 1,632M

(資料) ブルームバーグ

### 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の定番ランチやファーストフード』

タイで生活していると、「こんにちは」と同等の地位を持つ挨拶、それが「ご飯食べた？」です。お昼時に顔を合わせると、ほぼ100%この挨拶となります。業務が忙しくてランチを逃したりするときがありますが、「まだご飯食べてないよ」と答えると、この世の終わりのような表情で気の毒がってれます。それくらい、当地では食事を大切にしているということだと思います。

そんな当地での定番ランチ、ビルの中のフードコートに行ったり、「テント」と呼ぶ小さい屋台のようなお店が集まつた場所で食べることが多いです。工場に勤めている方々はキャンティーンで食事を取ります。キャンティーンを充実させることが従業員の確保や福利厚生の為に非常に重要、という話はよく伺います。ランチの内容は麺類だったり、お米にいくつかおかずを乗つけるぶつ掛けご飯みたいなものだったりが多いです。おかずは野菜炒めや各種カレー、ガパオなど。日によっておかずは変わるので飽きません。

ランチは外に出かけず、社内の食堂スペースで済ませる人々も。通勤途中で購入した食事(家から持つてくる人は少数派。あまり自分で料理をする習慣はありません。)をレンジでチンして食べます。食堂スペースには自分専用のお皿を各種取り揃えており、何種類も盛り付けて食べているのを見かけます。買った容器から移し替えて食べる(まあ、もともとビニール袋に詰めた物も多いので当然かもしれません)のを見ると、タイ人って品だなといつも思います。

こうやってお昼ご飯のことを書いていたら、お腹がすいてきました。最近私の一押し、ムキムキお兄さんとメガネのお兄さんが二人でやっているお店(ぶつ掛けご飯スタイル)は12時にはおかずが売り切れ閉店してしまう超人気店。コラムを書いている場合ではありません。ダッシュします！

## マレーシアリンギ相場

### 予想レンジ:

<b>USD/MYR</b>	<b>4.0700</b>	<b>~</b>	<b>4.1400</b>
<b>MYR/JPY</b>	<b>26.40</b>	<b>~</b>	<b>27.00</b>
<b>JPY/MYR</b>	<b>3.7050</b>	<b>~</b>	<b>3.7900</b>

マレーシアみずほ銀行 関上 伸一

### 先月の為替相場

1月のMYR相場は4.09～4.14台のレンジで推移。8月以来となる4.0920の高水準を記録した。

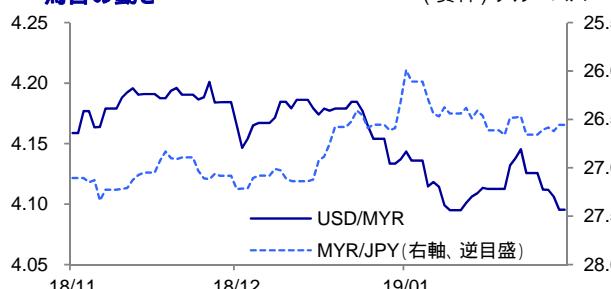
MYR相場は年初早々に世界経済減速懸念に襲われてスタート。まず中国で、12月製造業購買担当者景気指数が19か月ぶりの50ポイント割れ。続いて中国市場の減速感を理由に、米アップル社が過去15年で初めてとなる業績見通し下方修正を発表。更に米国で、12月ISM製造業景気指数が08年10月以来となる大幅な前月比低下幅となつた。米株・アジア株下落に連れ、昨年末に4.1330で引けたMYRは3日に4.1490の月間安値を記録。

4日の米12月雇用統計が事前予想を大きく上振れて米追加利上げ観測が否応無く高まったが、同日パウエル議長とイエレン前議長がそれぞれハト派的なコメントを発信し火消した格好で、MYRは7日に4.11台に上昇してギャップオープン。12月FOMC議事録で、全会一致の裏側で一部ボーダーメンバーから反対意見も表明されていたことが明らかになる中、米中貿易摩擦に対する楽觀的な見方も相俟って、10日に月中高値の4.0920を示現。

しかし、中国12月貿易統計は輸出入とも予想以上に弱く、改めて貿易戦争のインパクトが顕在化し始めたことを示唆すると、ブレキジットを巡る劇場的展開も重石となって4.11台に反落。21日発表の2018年中国GDP成長率が過去10年で最低水準を示すと、IMFも2019年世界成長率見通しの引下げを発表。更には中国副大臣による通商協議訪米オファーを米国が拒絶したと報道が流れ、4.14台まで下げ幅は拡大。24日発表のマレーシア12月CPIが低空飛行を継続する中、安定的な成長見通しに基づき、マレーシ亞中央銀行が政策金利(OPR)の3.25%据置きを決定する傍ら、MYRは4.1460の戻り安値を記録。

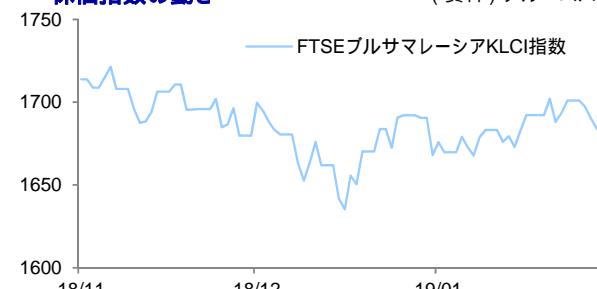
然し米政府アドバイザーのハセッタ氏の「米中が3月1日の期限までに通商合意に辿り着く自身がある」との発言が材料視される中、MYRは28日に4.1060迄大きく切り返し、29日現在4.1100水準で推移している。

### 為替の動き



(資料) ブルームバーグ

### 株価指数の動き



(資料) ブルームバーグ

### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/4	Trade Balance	Nov	11.0bln	7.6bln	16.3bln
1/4	Import(y/y)	Nov	4.1%	5.0%	11.4%
1/4	Export(y/y)	Nov	6.6%	1.6%	17.7%
1/7	Foreign Reserves	31-Dec	-	101.4bln	101.4bln
1/11	Industrial Production Yo'	Nov	2.30%	2.50%	4.30%
1/21	Foreign Reserves	15-Dec	-	101.7bln	101.4bln
1/24	CPI(y/y)	Dec	0.3%	0.2%	0.2%
1/24	Overnight Policy Rate	Dec	3.25%	3.25%	3.25%

(資料) ブルームバーグ

## インドネシアルピア相場

### 予想レンジ:

<b>USD/IDR</b>	<b>13950</b>	<b>~</b>	<b>14600</b>
<b>IDR/JPY</b>	<b>0.74</b>	<b>~</b>	<b>0.80</b>
<b>JPY/IDR</b>	<b>125.00</b>	<b>~</b>	<b>135.00</b>

(注)100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 河合 良介

### 先月の為替相場

1月のドルルピアは、14000～14495のレンジでの推移となり、ドルルピアは下落した。

年初、14420近辺でスタートしたドルルピアは、2日発表されたインドネシア12月消費者物価指数(CPI)が前年比+3.13%と想定内の結果となり、相場への影響は限定的。

一時高値となる14495をつけた後、米中が貿易協議を開催するとの報道を受け、貿易戦争への懸念が後退すると、8日には海外投資家の資金流入によるルピア買いが加速、ドルルピアは、8日には、一時14000近辺まで下落した。8日発表となった12月インドネシア外貨準備が3か月連続の増加となつたことも、海外投資家心理の改善につながった。

しかし、14000近辺では過度なルピア高を牽制する中銀介入(中銀のルピア売り)への警戒感もあり、その後は、14000台前半での取引が継続した。

月中盤、15日に発表された中国12月貿易統計が低調な結果となると、リスクオフムードから、ドルルピアは上昇。15日に発表されたインドネシア12月貿易収支が赤字が継続していることもルピア売りに拍車をかけ、14205近辺まで反転上昇した。

17日に実施されたインドネシア中央銀行金融政策決定会合は、市場予想通り、金利据え置きとなり、相場への影響は限定的であった。

月後半は、海外投資家の根強いルピア買いと月末輸入企業のドル買い(ルピア売り)需要が交錯し、14100台での取引となった。  
(1月29日終値ベース)

### 今月の見通し

今月のドルルピアは、14100～14500をコアレンジとした方向感を探る展開を予想する。

1月は、予想通り、年初の海外投資家の資金流入により、ルピア強含みの展開となつた一方で、14000近辺では、中銀による介入警戒感も根強く、下値の底堅さも確認された。

引き続き、国外に目を向けると、米中貿易摩擦・米金融政策見通しの影響を見極める必要がある一方、国内では、月次発表の経済指標に加え、10～12月期のインドネシアGDP(6日発表予定)・経常収支(8日発表予定)が発表となる。

インドネシア国内成長率の鈍化、また、特に、既に発表となつてゐる貿易収支の赤字拡大に起因する経常収支の赤字拡大が確認されれば、海外投資家の心理悪化につながるのではないかと危惧している。

以上より、海外投資家のルピア買いニーズの鈍化により、方向感を探りつつ、ややドルルピアが上昇する展開を予想する。

### 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の定番ランチやファストフード』

インドネシアで有名なファストフードチェーン店は、「Bakmi GM」です。

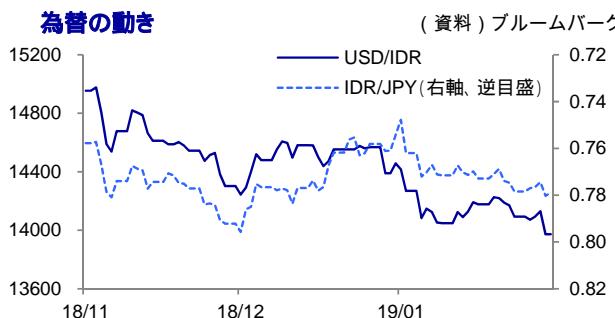
ミー(Mie・麺)が有名で、味付けがアッサリとしていて、誰の口にも合いやすいです。

インドネシアみずほ銀行の派遣員がランチに愛用していた日本食レストラン(同じビルに入居)がクローズになつて以降、出張者である私も、ランチ難民となり、オフィスから徒歩5分のこのお店を良く使います。

また、遠方でなかなか昼食を取る店が見つからない時などは、モールに入つてこのお店をついつい探してしまいます。

ネックとしては、私は注文したことのないのですが、現地のインドネシアの方がサイドメニューとして注文する揚げワンタンを、店員さんがしつこく勧めてくることでしょうか。

### 為替の動き



(資料)ブルームバーグ

### 株価指数の動き



(資料)ブルームバーグ

### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	CPI(前年同月比)	12月	3.01%	3.13%	3.23%
1/8	外貨準備高(USD B)	12月	-	120.7	117.2
1/15	輸出(前年比)	12月	1.03%	-4.62%	-2.80%
1/15	貿易収支(USD M)	12月	-1,115.0	-1,102.0	-1,996.0
1/17	BI 7daysリバースレポ金利		6.00%	6.00%	6.00%

(資料)ブルームバーグ

## フィリピンペソ相場

予想レンジ:

USD/PHP    52.00 ~ 53.50  
 PHP/JPY    2.04 ~ 2.100

アジア・オセアニア資金部 マニラ室 樋上 陽一

### 先月の為替相場

年初のドル/ペソ為替相場は1米ドル=52.50ペソでオープン。年末年始にトランプ米大統領から米中貿易摩擦の決着へ前向きなコメント、中国メディアが米中両国トップの友好ムードを報じたことが、市場センチメント改善を後押しし、年末の1米ドル=50.58ペソからややペソ高の水準で取引開始となった。4日に発表された比12月CPIは5.1%となり、市場予想の5.6%を下回りインフレ懸念が後退したこともペソをサポート。米12月雇用統計では米雇用市場の力強さを確認する結果となったが、パウエルFRB議長の『柔軟な金融政策を取る準備をしている』とのコメントがハト派と捉えられ、米金利の先高観が後退して為替市場はドル売りに。加えて中国の預金準備率引き下げや減税による景気対策への期待、また米中貿易摩擦問題に関する前向きなニュースでアジア通貨は強含み。10日に発表された比11月貿易統計では、貿易赤字が39.1億ドルとなり、過去最大の赤字となった前月の40.8億ドル、また市場予想から赤字幅が縮小したことでペソ買いに安心感が出て11日の取引終了は1米ドル=52.14ペソ。週明け14日は、中国の12月貿易統計が低水準となり、中国景気の減速懸念からアジア市場は動搖したが、ペソは底堅さを見せ、フィリピン株式指数は逆行高で8,000ポイント台を回復。翌日に中国当局の景気支援策が好感され、前日の動搖が解消されるとドル/ペソ為替相場は8か月ぶりのペソ高水準である1米ドル=52.03ペソで取引された。しかしながら、英国のEU離脱最終局面を迎えて安全資産のドル選好地合が強まることや、節目の1米ドル=52ペソを前に市場参加者のポジション調整で急速にドル買いペソ売りが進んだ。22日には冴えない中国第4四半期GDP、IMFによる世界経済見通しの下方修正で一時1米ドル=53ペソ台で取引されたが、米金利の先高観が剥落する中ではドル買いも続かず1米ドル=52ペソ半ばで方向感を探る展開。

(29日18時現在)

### 今月の見通し

ファンダの投資資金の流れをみると新興国市場への流入が増えているようだ。米金融当局の金融政策への変化も追い風となり、アジア通貨買いをサポートしそうな材料。

フィリピン株式指数は1月半ばに8000ポイント台を回復し、底堅さをみせる。18日にフィリピン中銀より発表された比12月総合国際収支は24.4億ドルで単月ベースで6年ぶりの高水準の黒字。昨年末のペソの底堅さを裏付ける数字といえよう。一方、季節要因を考慮しなくてはいけない点には注意が必要。左記の通り、比11月貿易赤字は前月から赤字幅が縮小したものの、11月のOFW(海外在留フィリピン人労働者)送金は23.3億ドルで、前年同月比で2.8%増も10月の24.7億ドルからは減少している。外貨の入り払いのネットは高水準の払いが続く状況は不变。市場は根強くペソ安材料として捉えそうだ。

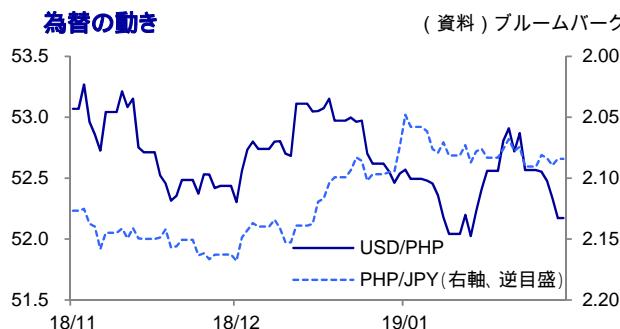
24日にフィリピン統計庁が発表した比第4四半期GDPは6.1%、18年のGDP成長率6.2%に。インフレ圧力による消費の頭打ちや輸出が伸び悩み、政府目標の7%に程遠い結果に。また過去3年では最低の結果(14年6.1%、15年6.1%、16年6.9%、17年6.7%)。第4四半期GDPが前期の6%から0.1%ポイント加速したことは評価してもいいと思うがこちらもペソ売り材料では。

市場は引き続き、方向感を探る展開となる。注目したいのは、米中貿易摩擦ネタがドル/ペソ為替相場に与える影響の変化。これまで不透明感が高まればリスクオフ、懸念の後退となれば市場センチメント改善でペソ買いただったが、市場センチメント改善は米株、米金利上昇にもつながる。それを好感して為替市場全体がドル買いとなればペソ売りは避けられそうにない。

方向感を探りながらも緩やかなペソ安のイメージ。

(同左)

### 為替の動き



(資料)ブルームバーグ

### 株価指数の動き



(資料)ブルームバーグ

### 先月の注目イベント

発表日 イベント  
上記参照

期間 予想 結果 前回  
(資料)ブルームバーグ

## インドルピー相場

予想レンジ:

USD/INR    68.00 ~ 73.50  
INR/JPY    1.45 ~ 1.62

アジア・オセアニア資金部 インド室 田川 順也

### 先月の為替相場

【1月の米ドル/インドルピーは上昇した】

69.72で年初取引を開始。年初は低調な中国経済指標や米IT大手の業績見通し下方修正等ネガティブなニュースが流動性の低い市場を直撃したかたちで相場は下落。ただ、1週目週末の北米時間でパウエルFRB議長が「市場リスクを懸念、柔軟な政策をとる」と発言すると、米利上げ期待が後退する形でドル売りとなり、ドル/ルピーも週明け月曜に当月の安値となる69.67までルピー高が進行。しかし、1年近く下方ブレイクできていない200日移動平均線(69.70レベル)を明確に下回ることはできず、原油価格が上昇すると、ルピー安に傾倒。

ドル安・アジア通貨高のセッションであったが、ドル/ルピーは原油に連れられるかたちで70台後半まで上昇。その後、印政府与党から「拡張的な財政政策を支持」との発言が聞かれると、財政悪化懸念からルピーが売られる展開が続く。21日にWTIが54ドル(ブレントでは63ドル)を超えるタイミングでドル/ルピーも当月の高値となる71.52を示現。その後も高値圏での推移が続き、71.17で25日のクローズを迎えた。

【1月のインドルピー/日本円は水準を切り下げた】

1.57レベルで年初オープンを迎えたルピー/円は第一営業日につけた1.584が当月高値となり、年初は上述のようにリスクイベントの発生に伴いドル/円はストップロスオーダーを巻き込みながら108円台後半から104.10まで暴落。ドル/円の円高に連れられルピー/円も一時的に2016年以来となる1.497まで急落。その後は米商務長官から米中通商交渉に対して明るい発言が聞かれるなどドル/円が水準を戻す動きにルピー/円も1.56近辺まで戻りを試したが、複数の米地区連銀総裁から弱気なコメントが出るとドル/円の上昇も勢いをなくす。

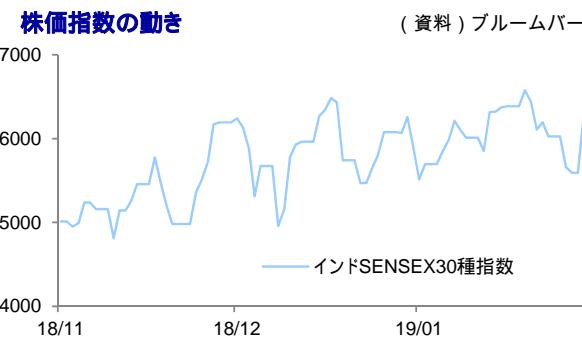
月後半にかけてはイギリスの内閣不信任案が否決されたことや、米中の通商交渉に明るい材料が見られたことなどが好感されるかたちでドル/円は109円台後半まで円安が進んだが、原油安・財政悪化をテーマとしたルピー売りが交錯し、ルピー/円は1.53近辺で方向感つかず。25日クローズ時点では1.539だった。

### 為替の動き



(資料) ブルームバーグ

### 株価指数の動き



(資料) ブルームバーグ

### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	製造業PMI	12月	-	53.2	54.0
1/11	鉱工業生産	11月	3.6%	0.5%	8.1%
1/14	CPI	12月	2.20%	2.19%	2.33%
1/15	貿易収支	12月	-145億ドル	-131億ドル	-167億ドル

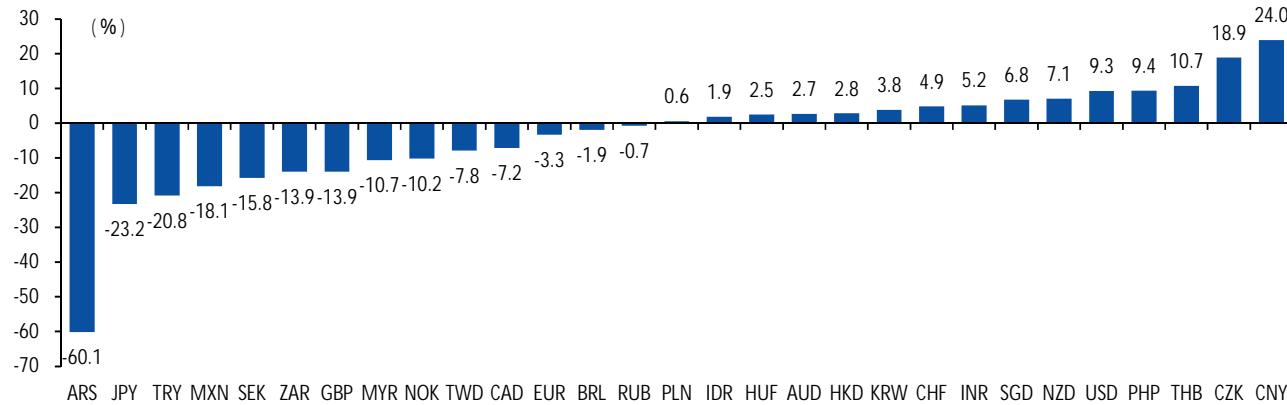
(資料) ブルームバーグ

## 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2018年末	2019年1月末	騰落率	株式市場	2018年末	2019年1月末	騰落率	USD換算
<b>先進国</b>									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	23327.46	24999.67	7.2%	-
日本	USD/JPY	109.69	108.89	-0.7%	日経平均株価	20014.77	20773.49	3.8%	4.6%
ユーロ圏	EUR/USD	1.1467	1.1448	-0.2%	ドイツDAX指数	10558.96	11173.1	5.8%	5.8%
英国	GBP/USD	1.2754	1.3109	2.8%	ロンドンFTSE100指数	6728.13	6968.85	3.6%	0.8%
豪州	AUD/USD	0.7049	0.7273	3.2%	S&P/ASX200指数	5646.4	5864.654	3.9%	0.7%
カナダ	USD/CAD	1.3637	1.3125	-3.8%	S&Pトロント総合指数	14322.86	15540.6	8.5%	12.7%
<b>エマージングアジア</b>									
中国	USD/CNY	6.8785	6.6961	-2.7%	上海総合	2493.896	2584.573	3.6%	6.5%
香港	USD/HKD	7.8319	7.8467	0.2%	香港ハンセン	25845.7	27942.47	8.1%	7.9%
インド	USD/INR	69.7675	71.085	1.9%	インドSENSEX30種	36068.33	36256.69	0.5%	-1.3%
インドネシア	USD/IDR	14390	13973	-2.9%	ジャカルタ総合	6194.498	6532.969	5.5%	8.6%
韓国	USD/KRW	1110.95	1112.72	0.2%	韓国総合株価	2041.04	2204.85	8.0%	7.9%
マレーシア	USD/MYR	4.1335	4.0953	-0.9%	ブルサマレーシ亞KLCI	1690.58	1683.53	-0.4%	0.5%
フィリピン	USD/PHP	52.556	52.172	-0.7%	フィリピン総合	7466.02	8007.48	7.3%	8.0%
シンガポール	USD/SGD	1.3629	1.3456	-1.3%	シンガポールST	3068.76	3190.17	4.0%	5.3%
台湾	USD/TWD	30.549	30.719	0.6%	台湾加権	9727.41	9932.26	2.1%	1.5%
タイ	USD/THB	32.327	31.229	-3.4%	タイSET	1563.88	1641.73	5.0%	8.7%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

## 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2018年12月時点)



**実質GDP成長率**

	2017Q2	2017Q3	2017Q4	2018Q1	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2017 (前年比%)	2018 (前年比%)
<b>先進国</b>									
米国*									
米国*	3.0	2.8	2.3	2.2	4.2	3.4		2.2	
日本*	2.1	2.7	1.5	-1.3	2.8	-2.5		1.9	
ユーロ圏	2.5	2.8	2.7	2.4	2.2	1.6	1.2	2.4	
英国	1.9	2.0	1.6	1.3	1.4	1.5		1.8	
豪州	2.1	2.8	2.4	3.0	3.1	2.8		2.4	
カナダ*	4.4	1.3	1.7	1.7	2.9	2.0		3.0	
<b>エマージングアジア</b>									
中国	6.8	6.7	6.7	6.8	6.7	6.5	6.4	6.8	
香港	3.9	3.6	3.4	4.6	3.5	2.9		3.8	
インド	5.6	6.3	7.0	7.7	8.2	7.1		7.2	
インドネシア	5.0	5.1	5.2	5.1	5.3	5.2		5.1	
韓国	2.8	3.8	2.8	2.8	2.8	2.0	3.1	3.1	2.7
マレーシア	5.8	6.2	5.9	5.4	4.5	4.4		5.9	
フィリピン	6.6	7.2	6.5	6.6	6.2	6.0	6.1	6.7	6.2
シンガポール	2.8	5.5	3.6	4.6	4.1	2.2	2.2	3.6	3.3
台湾	2.5	3.4	3.5	3.2	3.3	2.3	1.8	3.1	2.6
タイ	3.9	4.3	4.0	4.8	4.6	3.3		3.9	

(注)インドの年間成長率は会計年度(4~3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

**消費者物価上昇率**

	18/06	18/07	18/08	18/09	18/10	18/11	18/12	19/01	2017 (前年比%)	2018 (前年比%)
<b>先進国</b>										
米国										
米国	2.9	2.9	2.7	2.3	2.5	2.2	1.9		2.1	2.4
日本	0.7	0.9	1.3	1.2	1.4	0.8	0.3		0.5	1.0
ユーロ圏	2.0	2.1	2.0	2.1	2.2	1.9	1.6		1.5	1.7
英国	2.4	2.5	2.7	2.4	2.4	2.3	2.1		2.7	2.5
豪州	2.1					1.9		1.8	1.9	1.9
カナダ	2.5	3.0	2.8	2.2	2.4	1.7	2.0		1.6	2.3
<b>エマージングアジア</b>										
中国	1.9	2.1	2.3	2.5	2.5	2.2	1.9		1.6	2.1
香港	2.4	2.4	2.3	2.7	2.7	2.6	2.5		1.5	2.4
インド	4.9	4.2	3.7	3.7	3.4	2.3	2.2		3.3	4.0
インドネシア	3.1	3.2	3.2	2.9	3.2	3.2	3.1		3.8	3.2
韓国	1.5	1.1	1.4	2.1	2.0	2.0	1.3	0.8	1.9	1.3
マレーシア	0.8	0.9	0.2	0.3	0.6	0.2	0.2		3.9	1.0
フィリピン	5.2	5.7	6.4	6.7	6.7	6.0	5.1		3.2	5.1
シンガポール	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.3	0.5		0.6	0.4
台湾	1.4	1.8	1.5	1.7	1.2	0.3	-0.1		0.6	1.4
タイ	1.4	1.5	1.6	1.3	1.2	0.9	0.4		0.7	1.1

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

**失業率**

	18/05	18/06	18/07	18/08	18/09	18/10	18/11	18/12	2017 (%)	2018 (%)
<b>先進国</b>										
米国										
米国	3.8	4.0	3.9	3.8	3.7	3.8	3.7	3.9	4.4	3.9
日本	2.2	2.4	2.5	2.4	2.3	2.4	2.5		2.8	2.4
ユーロ圏	8.2	8.2	8.1	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	9.1	8.2
英國	4.2	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0		4.5	4.1
豪州	5.4	5.3	5.3	5.3	5.0	5.0	5.1	5.0	5.6	5.3
カナダ	5.8	6.0	5.8	6.0	5.9	5.8	5.6	5.6	6.3	5.8
<b>エマージングアジア</b>										
中国		3.8			3.8				3.9	3.8
香港	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	3.2	2.8	
インドネシア				5.3					5.4	5.2
韓国	4.0	3.7	3.8	4.2	4.0	3.9	3.8	3.7	3.9	
マレーシア	3.3	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3		3.4	3.3
フィリピン				5.4		5.1			5.7	5.3
シンガポール	2			2.1				2.2	2.1	
台湾	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	
タイ	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		1.2	1.1

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

**経常収支**

	2017Q1	2017Q2	2017Q3	2017Q4	2018Q1	2018Q2	2018Q3	2016 (対GDP比%)	2017 (対GDP比%)
<b>先進国</b>									
米国									
米国	-2.2	-2.3	-2.3	-2.3	-2.3	-2.2	-2.3	-2.3	-2.3
日本	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8	3.9	4.0
ユーロ圏	3.2	3.0	3.1	3.2	3.4	3.6	3.3	3.2	3.2
英國	-4.6	-4.3	-3.6	-3.3	-3.4	-3.3	-3.8	-5.2	-3.3
豪州	-1.6	-2.4	-2.9	-3.4	-2.3	-2.6	-2.2	-3.3	-2.6
カナダ	-2.9	-2.6	-2.6	-2.8	-3.0	-3.1	-2.8	-3.2	-2.8
<b>エマージングアジア</b>									
中国	1.5	1.4	1.0	1.3	0.9	0.5	0.4	1.8	1.3
香港	3.6	4.0	4.6	4.5	4.3	4.0	3.5	4.0	4.5
インド	-0.7	-1.3	-1.4	-1.5	-1.9	-1.9	-2.4	-0.6	-1.5
インドネシア	-1.5	-1.4	-1.3	-1.7	-2.0	-2.4	-2.8	-1.8	-1.7
韓国	6.3	5.5	5.6	5.1	4.5	4.5	4.6	7.0	5.1
マレーシア	2.0	2.6	3.0	3.1	3.7	3.3	2.6	2.1	3.1
フィリピン	-0.4	-0.5	-0.1	-0.8	-0.6	-1.6	-3.0	0.2	-0.8
シンガポール	19.9	19.3	19.2	18.8	18.7	19.0	18.5	19.2	18.8
台湾	13.1	12.9	13.6	14.3	14.3	14.0	12.7	13.6	14.3
タイ	11.1	10.6	11.0	11.0	10.5	10.0	7.6	11.7	

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4~3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

## 世界の政策金利

	現在(%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
		日付	水準(%)	日付	(単位:bp)	日付	決定事項
<b>先進国</b>							
米国	FFレート誘導目標	2.25-2.50	引き締め: 2015/12/17	0.25 - 0.50	2018/12/19 	+25	2019/1/30 現状維持
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5 	0-10	2019/1/23 現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10 	-5	2019/1/24 現状維持
英国	バンク・レート	0.75	引き締め: 2017/11/2	0.25	2018/8/2 	+25	2018/12/20 現状維持
豪州	キャッシュ・レート	1.50	緩和: 2011/11/1	4.75	2015/8/2 	-25	2018/12/4 現状維持
カナダ	翌日物金利	1.75	引き締め: 2017/7/12	0.50	2018/10/24 	+25	2019/1/9 現状維持
<b>エマージングアジア</b>							
中国	1年物貸出基準金利	4.35	緩和: 2012/6/8	6.31	2015/8/25 	-25	2015/10/23 -25bp
インド	翌日物レポ金利	6.50	引き締め: 2018/6/6	6.00	2018/8/1 	+25	2018/12/5 現状維持
インドネシア	7日物リバースレポレート	6.00	引き締め: 2018/5/17	4.25	2018/11/15 	+25	2019/1/17 現状維持
韓国	7日物レポ金利	1.75	引き締め: 2017/11/30	1.25	2018/11/30 	+25	2019/1/24 現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.25	引き締め: 2018/1/23	3.00	2018/1/23 	+25	2019/1/24 現状維持
フィリピン	翌日物金利	4.75	引き締め: 2018/5/10	3.00	2018/11/15 	+25	2018/12/13 現状維持
タイ	翌日物レポ金利	1.75	引き締め: 2018/12/19	1.50	2018/12/19 	+25	2018/12/19 +25bp
ベトナム	リファイナンス金利	6.25	緩和: 2012/3/12	15.00	2017/7/7 	-25	2017/7/7 -25bp

(注)インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBIIレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行